

# 岡山県民の余暇・レジャー動向

財団法人 岡山経済研究所

研究員 小川雄三

## I. はじめに

我が国は明治以来、欧米へのキャッチアップを大目標としてきたため、マクロ的な経済成長が最優先され、諸制度もそれに合致するよう制定された。経済成長政策が広く受け入れられていた時期には、国家、企業の成長が個人の豊かさに直結していたとも言える。しかし、世界第一の債権大国となった現在、従来の成長を支えてきた経済、社会システムをはじめとし、全面的な見直し、再検討の時期にあることは改めて言うまでもない。

また我々日本人の意識や生活力点も大きく変化している。今後、労働時間の短縮が進行する中、余暇の過ごし方如何が、人生・生活が充実したものであるか否かを決定すると言っても過言ではないであろう。

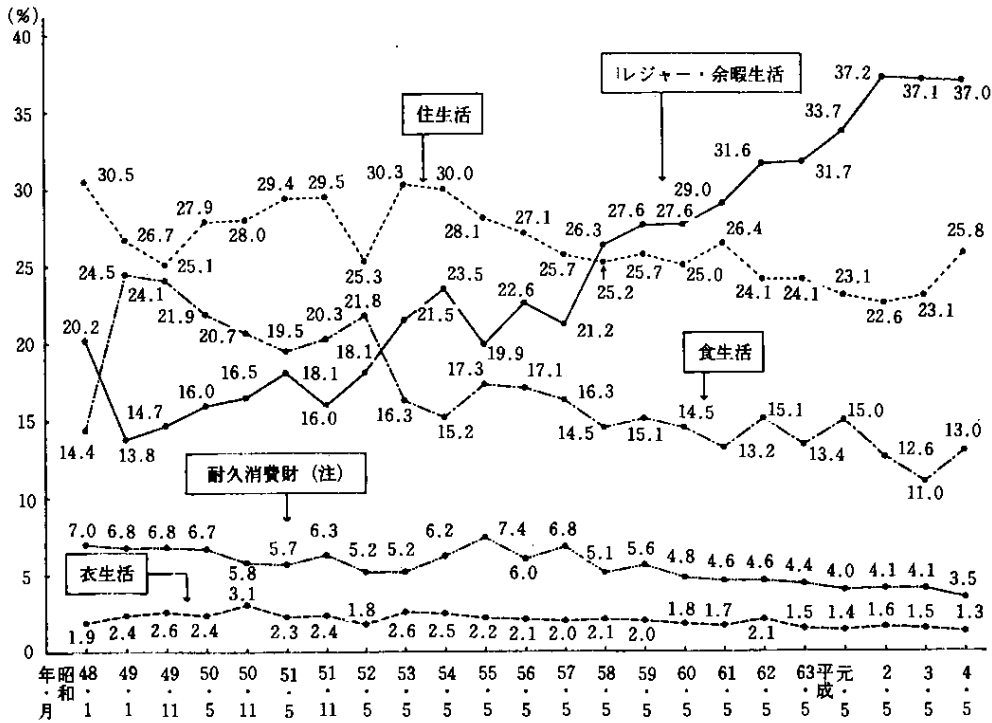
こうした点からも、現時点の余暇の過ごし方を捉えておくことは、決して意味のないことではないと思われる。ここではアンケート調査結果をもとに、岡山県民の余暇・レジャー動向の現状を概観してみたい。

## II. 我が国の余暇・レジャーへの取り組みの実態変化

まず、日本人の余暇・レジャーに対する取り組み変化について、意識と実態の両面からみることにしたい。

まず意識面についてであるが、日本人の生活力点が衣食住から余暇・レジャーなど、精神的なゆとりのある生活を求めていることを端的に示すデータとしてしばしば用いられるものに、総理府の「国民生活に関する世論調査」がある(図1)。それによると今後の生活力点としてレジャー・余暇生活とした人は、昭和49年には13.8%であったが、その後、ほぼ一貫して上昇傾向を辿り、昭和53年には21.5%で食生活を抜き第2位に、さらにその5年後の昭和58年には25.3%となり住生活を上回ってトップとなった。その後も平成景気の波に乗り上昇を続け、平成2年には37.2%とピークをつけた後、横バイが続き、現在に至っている。ただ、住生活の力点が下降する背景には土地・住宅価格の高騰による住宅取得等に対するあきらめ部分があることも事実であろう。つまり、比較する事項との関係での総体的評価にすぎないことに留意すべきであるが、何れにしても、70年代半ばまでは「ウサギ小屋」と揶揄された貧弱な住生活の充実が最も重視されていたが、80年代中盤以降は明らかにレジャー・余暇生活へと生活の力点が移っているのは

図1 今後の生活の力点



(注) 自動車、電気製品、家具などの耐久消費財の面  
資料：総理府「国民生活に関する世論調査」

確かであろう。

次に余暇・レジャーへの取り組みの実態面を総務庁の「家計調査」を利用してみたい。

家計調査品目のうち、教養娯楽耐久財(コード番号800~813)、運動用具(同830~834)、玩具(同837)、フィルム(同838)、レコード(同839)、切り花(同840)、ペット・園芸用品(同841)、手芸材料(同842)、他の教養娯楽用品(同843)、教養娯楽用品修理(同844)、書籍・他の印刷物(同850~859)、宿泊料(同860)、パック旅行費(同861)、他の教養娯楽サービス(同880~889、88X)及びたばこ(同940)を余暇・レジャー関連消費項目とすると、91年家計調査において、余暇・レジャー関連支出額は345,609円となっている(表1)。これは消費支出全体の8.8%を占める。82年には240,080円、7.9%であったので、10年間に0.9ポイント上昇したことになる。支出額の年平均伸び率をみると、82~87年は3.0%、87~91年において5.6%であるので、近年、増加傾向が著しいことが窺われる。またこの間の消費支出の年平均伸び率は同2.1%、同3.9%であるので、他の項目に比較しても余暇・レジャー関連支出の伸びの大きさがよくわかる。

以上のように日本人の余暇・レジャーに対する意識・支出割合は高まっているのであ

表1 余暇・レジャー関連支出額推移

(単位：円、%)

	1982	1987	1991	年平均伸び率	
				82-87	87-91
趣味・レクリエーション	240,080 (7.9)	278,406 (8.3)	345,609 (8.8)	3.0	5.6
食料関連	865,164 (28.5)	954,126 (28.3)	1,076,325 (27.4)	2.0	3.1
住居	138,192 (4.6)	167,986 (5.0)	201,078 (5.1)	4.0	4.6
光熱・水道	190,396 (6.3)	196,514 (5.8)	215,778 (5.5)	0.6	2.4
家具・家事用品	134,993 (4.4)	151,510 (4.5)	172,296 (4.4)	2.3	3.3
衣料	257,761 (8.5)	281,346 (8.4)	334,690 (8.5)	1.8	4.4
健康医療	137,702 (4.5)	155,905 (4.6)	189,416 (4.8)	2.5	5.0
交通通信	262,446 (8.6)	317,585 (9.4)	367,962 (9.4)	3.9	3.7
教育	163,276 (5.4)	194,538 (5.8)	227,911 (5.8)	3.6	4.0
こづかい・コミュニケーション	588,011 (19.4)	658,692 (19.5)	778,986 (19.8)	2.3	4.3

資料：総務庁「家計調査年報」

るが、それでは、具体的にどのような余暇・レジャー活動を行っているかを次にみることにしたい。

### Ⅲ. 我が国の余暇・レジャーへの参加状況

財団法人余暇開発センター「レジャー白書'92」によって余暇・レジャーへの参加状況をみると(表2)、91年において最も参加人口が多かったのは外食(日常的なものを除く)で6,460万人である。これに、国内観光旅行5,920万人、ドライブ5,870万人、カラオケ5,240万人と続いており、これら4項目が5,000万人を超えている。国民の約2人に1人がこれらに参加したことになる。

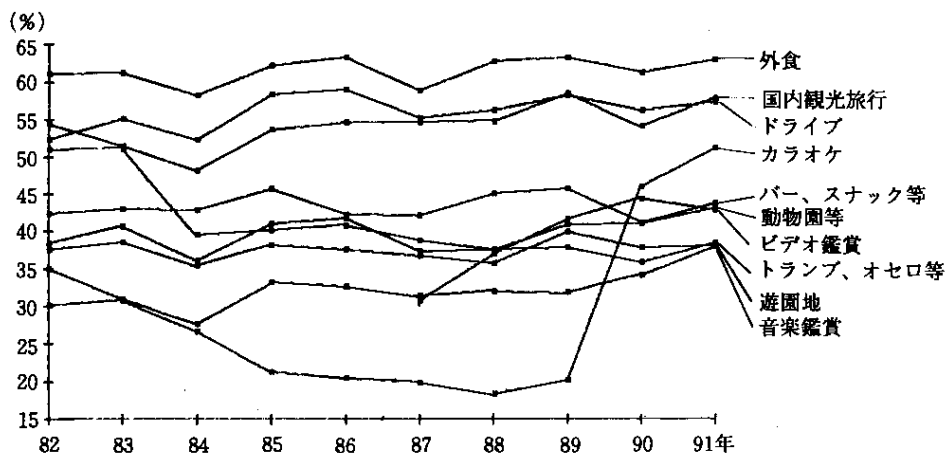
一方、参加率(ある余暇・レジャー活動を1年間に1回以上行った人の割合)をみると、外食(日常的なものを除く)63.1%、国内観光旅行57.9%、ドライブ57.4%、カラオケ51.2%などとなっている。参加率の推移をみても(図2)、殆どの項目において上昇傾向にある。また将来の参加希望率も高くなっている。

表2 我が国の余暇・レジャー項目別参加人数

	1982年	1987年	1991年
外食（日常的なものは除く）	5,600万人	5,820万人	6,460万人
国内観光旅行	4,980	5,390	5,920
ドライブ	4,790	5,440	5,870
カラオケ	2,760	1,980	5,240
バー、スナック、パブ、飲み屋	3,880	4,180	4,480
動物園、植物園、水族館、博物館	3,520	3,660	4,410
ビデオ鑑賞	—	3,010	4,390
トランプ、オセロ、カルタ、花札など	4,660	3,840	3,930
遊園地	3,450	3,610	3,900
音楽鑑賞	3,210	3,070	3,880

資料：財余暇開発センター「レジャー白書」

図2 我が国の余暇・レジャー項目別参加率推移



注：カラオケは89年までは家庭でのもの

資料：財余暇開発センター「レジャー白書」

ところで、我が国の余暇・レジャーへの参加状況は国際的にみてどのレベルなのであろうか。若干資料は古くなるが、同じく余暇開発センター『7か国比較国際レジャー調査'89』によりみることにする。日本、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、西ドイツ、オーストラリアの7か国における主な余暇・レジャー活動の参加率を一覧表にしたものが表3である。我が国の余暇・レジャー活動を他の6か国と比較すると、ゴルフ、テニス、スキー、釣り、遊園地に行く、国内観光旅行など他国の参加率を超えるものもあるが、参加率トップのものはなく、多くの項目で参加率の低さが目立っている。つまり、最近、我が国の余暇・レジャーへの取り組みが上昇しているといわれるものの、国際的にみれば必ずしも上位に位置付けられるものではないようである。

表3 余暇・レジャー参加率の国際比較

(単位：%)

	ジョギング	エアロビクス	サイクリング・スポーツサイクル	水泳	ゴルフ	テニス	スキー	釣り	乗馬	ヨット・モーターボート	映画鑑賞	音楽会・コンサートに行く	軽音楽鑑賞レコード・テープ	手芸・編み物	読書	美術館・博物館	外食	ホームパーティー	遊園地に行く	ドライブ	キャンプ	ハイキング	国内観光旅行宿泊つき	外国旅行	ボランティア活動
日本	16.3	3.1	7.4	21.0	16.1	11.0	9.8	14.7	0.4	1.5	25.5	16.2	25.1	19.9	48.7	18.6	41.7	8.3	26.0	46.4	7.0	11.5	40.2	6.8	4.1
アメリカ	25.8	14.6	24.2	40.0	11.2	8.9	8.8	32.5	8.3	12.0	50.9	35.1	49.0	22.7	65.8	24.6	60.8	30.4	30.8	62.7	23.5	18.0	30.0	11.3	21.4
カナダ	23.1	16.8	39.5	50.4	21.1	12.0	21.0	33.8	9.6	16.7	53.1	35.2	63.3	26.7	72.2	29.5	72.6	42.7	34.0	73.3	34.0	32.3	46.0	23.5	30.0
イギリス	16.6	10.2	20.0	46.0	10.7	10.1	4.3	9.9	4.9	5.0	39.7	27.5	43.1	23.1	70.2	23.3	57.4	20.9	25.9	47.7	13.6	11.3	31.3	34.1	13.5
フランス	25.6	3.0	35.3	31.8	1.5	12.3	12.0	15.2	4.8	5.6	40.8	14.3	63.3	44.0	72.5	25.1	54.1	41.2	21.5	60.2	18.7	27.3	33.8	22.6	18.8
西ドイツ	20.3	19.9	44.6	51.4	2.0	8.3	10.2	3.4	3.4	3.3	36.5	26.4	55.6	29.4	59.1	15.0	54.6	34.8	19.2	58.6	9.8	36.7	40.4	32.4	12.1
オーストラリア	24.0	15.4	24.6	41.2	15.3	20.6	8.1	28.9	8.4	12.5	49.1	33.6	59.3	27.8	69.0	29.3	56.4	37.6	24.3	62.5	27.8	16.6	38.7	13.5	19.5

資料：(財)余暇開発センター「7カ国比較国際レジャー調査'89」

## IV. 岡山県民の余暇・レジャー動向

### 1. 調査方法

岡山県民の余暇・レジャー動向は「第6回岡山県民の生活行動圏調査」の特別調査事項として実施した。岡山県民の生活行動圏調査については、1990年1月29、30日に開催された広島大学経済学部附属地域経済研究センター第1回研究集会において報告しているが、簡単に説明しておきたい。

本調査はこれまで6回にわたり実施しており、その経過は表4にまとめられる。第3回目までは隔年に実施していたが、第4回目以降は2年おきの実施に変更した。これは、昭和60年がちょうど「商業統計調査」の実施年に当たったこともあって、以後、この調査年と間接的な整合性を保つことを考慮したためである。調査は何れも、所定の市町村の各世帯をまわり、聞き取り方式により実施している。調査対象者として、各世帯の18歳以上の男女を無作為に選び、1世帯につき対象者は1人としている。調査対象数は各市町村を単位として18歳以上の人口に比例した層別二段抽出法によった。また一市町村当りの最小標本数(配布数)は50としている。第6回調査については岡山県内78市町村と県外4市の18歳人口の合計を2,022,853人(昭和60年国勢調査人口)とし、最も人口の少ない阿波村(644人)を最低配布数50となるように割り付けた。この結果、配布総数は8,601票となった。市町村別の回収状況は表5のようであり、回収総数は7,695票、

表4 岡山県民の生活行動圏調査実施要領

調査	調査年	調査対象地域
第1回	昭和54年	岡山県下78市町村
2	56	高松、福山、坂出市を追加
3	58	
4	60	
5	63	丸亀市を追加
6	平成3年	

調査	配布数	回収数	回収率%
第1回	7,277	6,999	96.2
2	8,507	8,301	97.6
3	8,508	8,324	97.8
4	8,508	7,092	83.4
5	8,601	7,763	90.3
6	8,601	7,695	89.5
合計	50,002	46,174	92.3

表5 調査票回収状況

市町村名	18歳以上の人口 (人)	回収サンプル数	市町村名	18歳以上の人口 (人)	回収サンプル数
岡山市	422,844	838	川上 川上町	4,073	54
倉敷市	296,907	574	備中 備中町	3,347	36
津山市	63,650	284	阿哲 大佐町	3,553	55
玉野市	56,851	216	神郷 神郷町	2,382	53
笠岡市	46,022	194	哲多 哲多町	3,364	49
井原市	27,662	118	哲西 哲西町	2,945	43
総社市	37,359	135	真庭 勝山町	8,162	50
高梁市	20,369	92	落合 落合町	13,316	71
新見市	21,601	88	湯原 湯原町	3,545	54
佛前市	24,290	75	久世 久世町	8,710	63
御津 御津町	8,653	59	美甘 美甘村	1,631	52
建部町	6,352	59	新庄 新庄村	1,043	50
加茂川町	5,443	57	川上 川上村	2,026	52
赤磐 瀬戸町	10,437	66	八束 八束村	2,529	53
山陽 山陽町	14,287	73	中和 中和村	761	50
赤坂 赤坂町	4,230	41	苫田 加茂町	4,998	55
熊山 熊山町	4,906	57	富 富村	911	51
吉井 吉井町	5,079	50	奥津 奥津町	2,827	54
和気 日生町	7,718	48	上斎原 上斎原村	915	49
吉永 吉永町	4,169	54	阿波 阿波村	644	50
佐伯 佐伯町	3,791	50	鏡野 鏡野町	8,916	59
和気 和気町	10,497	54	勝田 勝田町	3,522	55
邑久 牛窓町	6,992	40	勝田 勝田町	8,647	44
邑久 邑久町	15,529	74	奈義 奈義町	6,073	59
長船 長船町	7,211	62	勝北 勝北町	5,932	59
児島 灘崎町	9,541	65	英田 大原町	4,313	55
都窪 早島町	8,262	57	東粟倉 東粟倉村	1,179	43
山手 山手村	2,462	47	西粟倉 西粟倉村	1,525	50
清音 清音村	3,633	52	美作 美作町	10,825	67
浅口 船穂町	5,571	55	作東 作東町	6,930	53
金光 金光町	9,442	53	英田 英田町	3,040	53
鴨方 鴨方町	14,279	73	久米 中央町	6,078	59
寄島 寄島町	5,804	59	旭 旭町	3,416	51
里庄 里庄町	7,342	61	久米南 久米南町	5,503	58
小田 矢掛町	13,680	70	久米 久米町	6,626	48
美星 美星町	5,197	56	備原 備原町	6,035	47
後月 芳井町	5,704	35	岡山県小計	1,420,017	6,344
吉備 真備町	15,610	75	福山市	257,409	475
上房 有漢町	2,494	52	高松市	240,983	415
北房 北房町	5,479	58	坂出市	49,615	219
賀陽 賀陽町	6,935	54	丸亀市	54,829	242
川上 成羽町	5,491	60	合 計	2,022,853	7,695

注：18歳以上人口は昭和60年国勢調査による。

回収率は89.5%であった。同調査の特徴としては、(1)回答者属性、(2)通勤・通学圏、(3)観光圏、(4)医療圏(軽症、重症)、(5)交際圏(第6回では未実施)、(6)商圈(代表的な商品15品目)、(7)トピックスの7観点を測定している。観点(7)のトピックス項目は、各調査実施時期の世相や地域性を反映したものを調査しており、第2回目調査より実施している。今回の余暇・レジャーはこのトピックスとして調査したものである。

具体的には、さまざまな余暇・レジャー活動から代表的なもの35項目(その他を含めると36項目)を適宜選び、過去1年間の利用実績を①ほとんどない、②年1～2回程度、③月1～2回程度、④週1～2回程度、⑤ほとんど毎日の5段階の頻度からそれぞれ選択するという様式で調査実施した。

## 2. 余暇・レジャー参加状況

調査結果をまとめたのが表6である。これによると過去1年間(90年央～91年央)に何らかの形で(頻度を問わず)参加した余暇・レジャー活動として最も多いのはテレビ観賞で130.1万人である。これに外食115.9万人、参拝103.4万人、一泊以上の国内観光99.6万人が続いている。これに対して、乗馬、スカイスポーツなどはほとんどないが140万人を超えており、平素あまりなじみのない余暇・レジャー活動といえるであろう。

次に、より頻繁に参加する余暇・レジャー活動としてほぼ毎日活動しているものをみると、テレビ観賞の94万人が圧倒的に多い。これに、読書17万人、家でごろ寝16万人、音楽鑑賞14万人、園芸・盆栽12万人などと続いている。そこで「1年間に何らかに参加」した余暇・レジャー活動と「ほぼ毎日参加」した余暇・レジャー活動を比較すると表7にまとめられる。テレビ観賞、家でごろ寝、読書は35の余暇・レジャー活動中、何らか、ほぼ毎日参加、いずれも高い参加人数を示しており、最も県民参加の高い余暇・レジャー活動といえるであろう。また、ほぼ毎日参加の項目については、音楽鑑賞や園芸・盆栽などを加え比較的家庭の中で、手軽に実施可能なものとなっている。

一方、1年間に何らかに参加した活動では、外食、参拝、一泊以上の観光旅行などが加わっている。これらは1年間を通じてみると習慣的に実施する恒例の余暇・レジャー活動として位置づけられよう。

表7 参加頻度別にみた余暇・レジャー項目

ほぼ毎日参加	1年間に何らかに参加
テレビ観賞	テレビ観賞
読書	外食
家でごろ寝	参拝
音楽鑑賞	国内観光
園芸・盆栽	読書
	家でごろ寝

資料：(財)岡山経済研究所「第6回岡山県民の生活行動圏調査」

表6 岡山県民の余暇・レジャー項目別参加人数及び参加率

(単位：人、%)

	参 加						不 参 加 (ほとんどない)
	年1~2回	月1~2回	週1~2回	ほぼ毎日	参加人数合計	参加率	
テレビ観賞	28,800	85,080	251,540	935,550	1,300,970	92.0	113,720
外食	287,510	667,770	174,720	29,090	1,159,090	81.9	256,780
参拝	898,930	110,030	13,160	11,850	1,033,970	73.0	381,530
一泊以上の国内旅行	955,750	37,670	2,130	—	995,550	70.3	420,960
読書	140,930	334,740	338,000	168,440	982,110	69.5	430,700
家でごろ寝	133,520	349,170	319,410	155,240	957,340	68.2	446,780
ドライブ	302,500	406,530	149,960	20,170	879,160	62.1	535,920
カラオケ(スタジオ)	290,180	341,470	48,410	2,760	682,820	48.3	731,930
遊園地・レジャーランド	563,890	102,670	4,500	220	671,280	47.5	742,630
自宅での音楽鑑賞	96,050	176,060	208,030	141,690	621,830	44.0	790,050
園芸・盆栽	81,980	143,270	134,600	117,480	477,330	33.8	936,020
博物館・美術館	422,940	43,030	1,360	—	467,330	33.0	948,500
映画鑑賞	344,840	103,420	4,850	490	453,600	32.1	961,630
健康ランド	344,030	57,050	6,590	240	407,910	28.8	1,007,200
音楽会やコンサート	322,080	55,800	2,580	1,020	381,480	27.0	1,032,070
パチンコ	78,160	172,610	97,040	12,280	360,090	25.4	1,055,440
創作活動(手芸等)	110,570	118,490	71,480	23,580	324,120	22.9	1,088,930
ゴルフ(コース)	153,210	154,720	10,780	520	319,230	22.6	1,096,150
文化教室やおけいこ	46,910	124,560	137,960	5,730	315,160	22.3	1,099,810
スキー	283,620	18,750	5,510	540	308,420	21.8	1,107,680
奉仕活動(ボランティア)	212,250	55,640	11,290	5,280	284,460	20.1	1,130,230
釣り	168,880	87,020	13,930	1,200	271,030	19.2	1,143,260
ハイキング・キャンプ	242,980	9,370	620	40	253,010	17.9	1,162,990
テニス	127,380	91,100	27,390	3,080	248,950	17.6	1,166,630
各種スポーツ教室	59,880	76,390	78,150	4,770	219,190	15.5	1,192,890
囲碁・将棋	57,950	69,290	50,270	18,910	196,420	13.9	1,213,910
ジョギング・マラソン	67,440	38,390	25,960	26,510	158,300	11.2	1,257,140
野 球	104,040	41,750	7,690	1,330	154,810	10.9	1,261,120
自然観察	119,840	23,850	3,030	7,770	154,490	10.9	1,257,150
テレビゲーム	36,110	52,150	46,080	16,210	150,550	10.6	1,263,850
海外旅行	108,860	2,540	550	540	112,490	7.9	1,303,760
海洋性レジャー	75,100	9,660	2,020	280	87,060	6.2	1,327,610
ゲートボール	19,590	25,250	28,810	9,300	82,950	5.9	1,332,830
スカイスポーツ	6,790	1,150	700	—	8,640	0.6	1,407,010
乗 馬	6,010	1,230	—	780	8,020	0.6	1,408,040

資料：岡山県経済研究所「第6回岡山県民の生活行動圏調査」



次に余暇・レジャーの参加頻度から男女別にその動向をみることにしたい。そのため、各余暇・レジャーごとに参加人数の加重平均をとり、平均スコアを算出することにする。

ある余暇・レジャー項目に関する平均スコア  $L(i)$  は

$$L(i) = \{F(i,1) \times 1 + F(i,2) \times 2 + F(i,3) \times 3 + F(i,4) \times 4 + F(i,5) \times 5\} \div N(i)$$

で算出される。

ここで、

$L(i)$  :  $i$  番目の余暇・レジャー活動の平均スコア

$F(i,1)$  : 「ほぼない」の人数

$F(i,2)$  : 「年1～2」の人数

$F(i,3)$  : 「月1～2」の人数

$F(i,4)$  : 「週1～2」の人数

$F(i,5)$  : 「ほぼ毎日」の人数

$N(i)$  :  $F(i,1) \sim F(i,5)$  の合計人数

この平均スコアは1～5の値をとり、平均的(月1～2回程度)であれば中間基準値3付近となる。

35の余暇・レジャー活動の平均スコアを男女別にプロットしたものが、図3である。これによると男女差が比較的目標立つ項目としては、ごろ寝、パチンコ、囲碁・将棋、創作活動、文化教室、釣り、ゴルフ、野球などがあげられる。

ごろ寝の平均スコアは男性2.96、女性2.51であり、男女ともに実施程度の高い項目であるが、男性側の方がより多くなっている。また参加率においても、男性76.8%、女性60.8%で16ポイント男性が多くなっている。パチンコは平均スコア男性2.06、女性1.09で差が0.97にも達し、男性と女性の参加割合が一番大きく相違する項目である。参加率でも男性48.4%に対して、女性5.6%である。ゴルフ、囲碁・将棋、釣りなども同様に男性が女性の参加率を大きく上回る項目である。なお、野球は男性1.31、女性1.02とともに平均スコアの低い項目であるが、男性で比較的实施されている。参加率をみると、男性22.2%にして女性1.2%である。

反対に、創作活動や文化教室やおけいこ事への参加は女性で高く、男性で低い傾向にある。平均スコアでみると創作活動—女性1.77、男性1.11、文化教室やおけいこ事—女性1.88、男性1.10、参加率でみるならば、創作活動—女性37.8%、男性5.8%、文化教室やおけいこ事—女性37.4%、男性4.8%となっている。

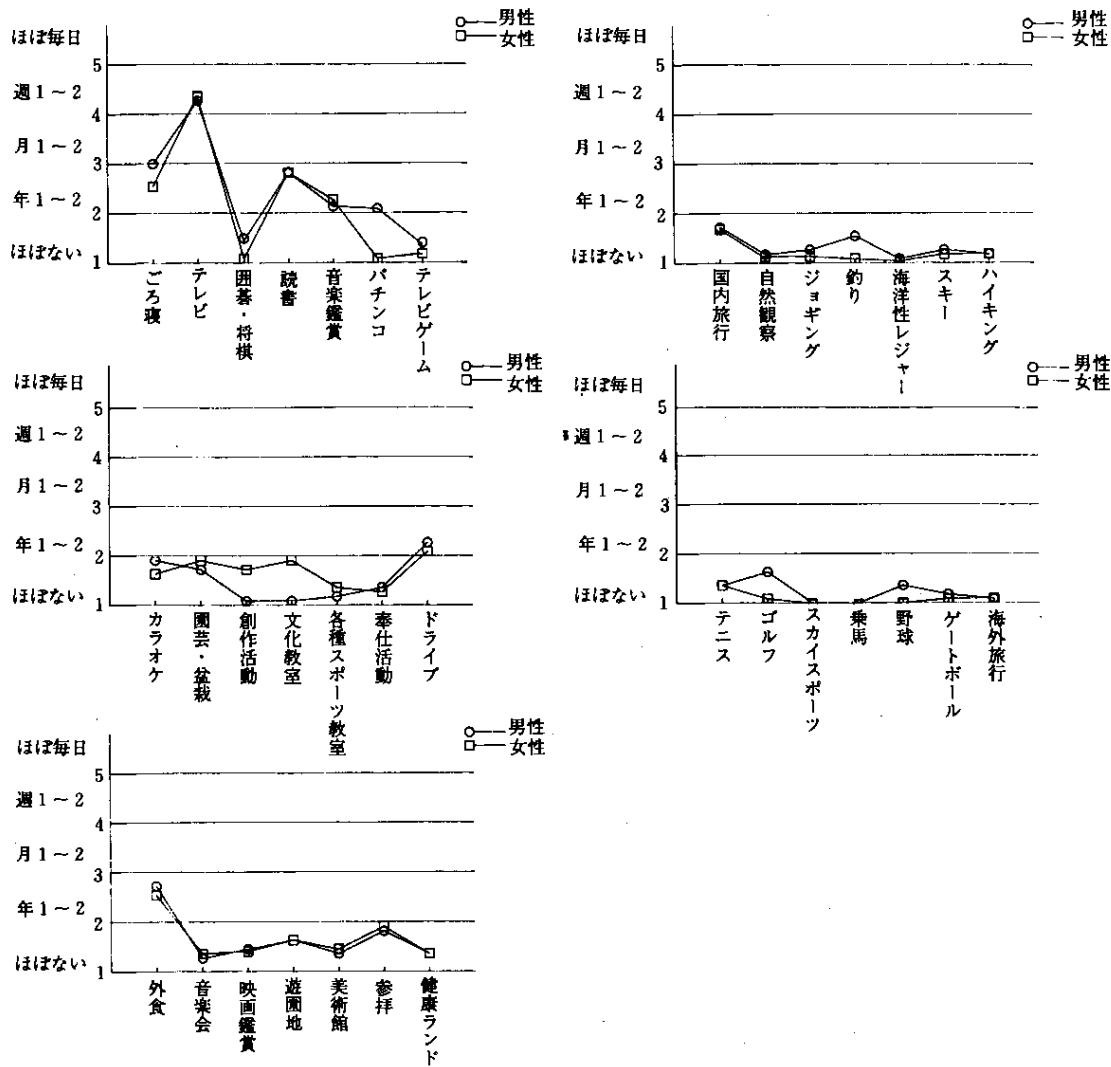
以上、本調査結果から、岡山県民の余暇・レジャー活動の状況を要約すると次のようにまとめられよう。

- ① 日常的に実施されている余暇・レジャーとしては、テレビ観賞、家でごろ寝、読書、外食、ドライブなどである。
- ② スカイスポーツや乗馬などへの参加はほとんどみられなかった。
- ③ 参拝、一泊以上の国内観光については、1年間の参加頻度は少ないものの、参加

人数は多かった。

- ④ スポーツ参加については、ゴルフ、スキーなどが比較的多かったものの、単独の項目で参加人口、頻度が多いというレベルに達したものはなかった。
- ⑤ 男女差の大きな余暇・レジャー活動としては、パチンコ、囲碁・将棋、ゴルフ、釣りなどが男性に多く、文化教室やおけいこ事、創作活動等は女性に多かった。

図3 男女別の余暇・レジャー活動参加状況



資料：(財)岡山経済研究所「第6回岡山県民の生活行動圏調査」

## V. 全国と岡山県の余暇・レジャーの比較

最後に、全国と岡山県の余暇・レジャーを参加率の面から比較してみたい。ただし、(財)余暇開発センターは15歳以上、岡山県民生活行動圏調査は18歳以上を対象としているため、調査結果を単純に同一レベルで比較することは必ずしも妥当ではないであろうが、おおよその傾向はつかめるであろう。

両調査に共通の余暇・レジャー項目は20ある。それをまとめたのが表8である。これによると、スポーツ部門では、ジョギング・マラソン、野球などでは全国が岡山県を、反対に、ゴルフ(コース)、スキー、テニスなどでは岡山県が全国の参加率を上回っている。

一方、趣味・創作部門では音楽鑑賞、音楽会やコンサート、映画鑑賞、園芸・盆栽で岡山県民の参加率が全国の参加率を上回った。また、観光・行楽部門では、海外旅行を除き遊園地(レジャーランド)、ドライブ、国内観光旅行の3項目で、岡山県が全国の参加率を上回った。

表8 岡山県と全国の余暇・レジャー項目別参加率

		岡 山 県	全 国	岡山県-全国
ス ポ ー ツ 部 門	ジョギング・マラソン	11.2%	26.0%	▲14.8
	野 球	10.9	21.9	▲11.0
	ゲ ー ト ボ ー ル	5.9	3.2	2.7
	ゴ ル フ (コ ー ス)	22.6	13.2	9.4
	テ ニ ス	17.6	13.8	3.8
	乗 馬	0.6	0.7	▲0.1
	ス キ ー	21.8	16.6	5.2
	釣 り	19.2	16.6	2.6
娛 楽 部 門	カ ラ オ ケ	48.3	51.2	▲2.9
	テ レ ビ ゲ ー ム	10.6	25.3	▲14.7
	パ チ ン コ	25.4	28.5	▲3.1
	外 食	81.9	63.1	18.8
行 楽 部 門	遊園地(レジャーランド)	47.5	38.1	9.4
	ド ラ イ ブ	62.1	57.4	4.7
	国 内 観 光 旅 行	70.3	57.9	12.4
	海 外 旅 行	7.9	9.2	▲1.3
創 作 部 門	園 芸 ・ 盆 栽	33.8	32.5	1.3
	映 画 鑑 賞	32.1	27.5	4.6
	音 楽 会 や コ ン サ ー ト	27.0	21.5	5.5
	音 楽 鑑 賞	44.0	37.9	6.1

資料：(財)岡山経済研究所「第6回岡山県民の生活行動圏調査」  
(財)余暇開発センター「レジャー白書」

これに対して娯楽部門では、外食を除き、テレビゲーム、パチンコ、カラオケの3項目で、全国の参加率が岡山県民の参加率を上回った。比較できる余暇・レジャー項目が限られており、これのみで即断することはできないであろうが、概して、趣味・創作部門、観光・行楽部門は岡山県、娯楽部門は全国の参加率が高くなっているようである。

なお、全国との岡山県の参加率が大きく相違する余暇・レジャー項目としては、ジョギング・マラソン、野球、テレビゲーム（全国の参加率が岡山の参加率を大きく上回る）、外食、ゴルフ（コース）、遊園地（レジャーランド）（岡山の参加率が全国の参加率を大きく上回る）がある。

これだけでは岡山県民の余暇・レジャー活動を特徴づけることはむずかしいが、岡山県民の余暇・レジャーへの取り組みは、参加率からみて全国より活発であり、しかも特定の分野にかたよることなく、スポーツ、観光・行楽、趣味・創作といった分野にわたって幅広く実施されていると言えるのではないであろうか。

## VI. おわりに

現存資料が少ないためはっきりしたことは明らかでないが、江戸時代には地域差等もあるものの、農民の休日には「遊び日」と「休み日」の2種類があったとされている。「遊び日」は神事祭礼日であり、労働禁止日とし（農）作業は禁止されていた。これが年間50日前後。「休み日」は労働休養日であり、月に1～2日の定例の休養日と田植えなど重労働に対する慰労のための特例の休養日があったようである。その他、私的な休み等も加えると、年間休日数は100日ぐらいあったものとみられている。それが明治時代に入り、つまり農業社会から工業社会に移行する過程において、休日は、政府が定めた8日の祝祭日と盆・正月の休み以外はほとんどなくなり、年間休日数は30～40日にまで減少した。その後、我が国では、ほぼ一貫して「時短よりも賃金上昇」を選択してきたことから、休日数は先進諸国の中では低位に止まっている。ただし、我が国の産業革命の開始はイギリスに遅れること約130年ということから考えると、休暇後進国であることは当然のことであるかもしれない。

しかし世界一の債権国となった現在、住宅等々解決すべき課題はあるとは言え、拡大・成長、つまり労働より休暇すなわち余暇・レジャーに価値を求めるという動きが出てくるのは「限界効用逓減の法則」より当然のことであろう。休暇後進国である我が国は、休暇先進国としての欧米の事例を参考にしながら、我が国の社会、文化に合致した休暇制度を構築することが、現在、問われているのではなかろうか。こうした中、余暇・レジャーについても同様で、いわば後発の利益を生かす工夫やとかく日本人が陥りやすい集団性、ワンパターンからの脱出が求められているように思われる。